

第48期 国際物流管理士 資格認定講座

International Logistics Master Course



本講座ではこのような人材を育てます

- 国際物流の基本から法規制や最新動向まで理解し、海外でのサプライチェーンの構築・改善ができる人材
- 顧客に対して国際物流を含めた企画提案ができる人材
- 将来の海外駐在員としてグローバル視点を持ってマネジメントができる人材

ぜひ、貴社内の国際ビジネス、国際物流、SCMにかかわる部署の方々にも本パンフレットをご回覧ください

【製造業】

国際物流部・グローバル企画部・海外営業推進部・SCM部等

【物流事業者】

国際事業推進部・グローバル統括部・海外オペレーション部・通関保税部等

開催日程

第1単元：9月9日(水)
第2単元：9月10日(木)・15日(火)・16日(水)
第3単元：10月6日(火)・7日(水)
第4単元：10月13日(火)
第5単元：10月14日(水)
11月4日(水)・5日(木)
現地見学：10月21日(水)午後
東京港コンテナターミナル(現地見学：東京都品川区)
10月28日(水)午後
成田空港貨物ハンドリング施設(オンライン見学)
第6単元：11月12日(木)・13日(金)
第7単元：12月9日(水)・10日(木)
第8単元：1月13日(水)・14日(木)
第9単元：2月3日(水)・4日(木)
認定証授与式：3月12日(金)
※9月9・10日、11月4・5日、2月3・4日は集合開催です。



詳細・お申込

<https://www1.logistics.or.jp/education/ilm/>

第48期『国際物流管理士資格認定講座』開催にあたって

グローバル化が進展するなか、企業が国際競争を勝ち抜くうえでロジスティクス管理の重要性が高まっています。製造業や流通業等の荷主企業は、グローバルな視点から物流拠点の配置を考え、調達先から消費地までのグローバルロジスティクス構築を目指す必要があります。そのため、国際物流のシステム革新やローコストオペレーションの推進が不可欠です。一方、物流企業は、顧客である荷主のグローバルロジスティクス構築に対して重要な役割を果たしており、荷主の国際物流の見直しや効率化を支援するためのシステム提案が求められています。

さらに、米国関税ショックや地域紛争等の影響を受けたサプライチェーン寸断への対応やDX（デジタルトランスフォーメーション）推進、サステナビリティの追求の観点から、これまでの物流の見直しを迫られています。これらの課題に対処するためには、自社や顧客のビジネスを理解し、国際物流の専門知識と管理技術を持つスペシャリストが不可欠です。

「国際物流管理士資格認定講座」は、わが国唯一の国際物流のスペシャリスト育成講座として1979年の開講以降、1,702名の「国際物流管理士」を輩出し、産業界から非常に高い評価を受けています。第48期を迎える本講座は、最新の動向を踏まえつつ、広範な国際物流について概論から応用までわかりやすく解説し、企業事例や物流施設見学、グループ討議、ケーススタディなどを取り入れ、実務に直結するカリキュラムを提供しています。また、大部分の講義をオンラインで受講できます。

国際物流のスペシャリスト育成に、ぜひ本講座をご活用くださいますようお願い申し上げます。



国際物流管理士専門委員会
委員長 林 克彦
(流通経済大学 流通情報学部 大学院 物流情報学専攻 教授)

国際物流を担う人材に関して、ご要望はありませんか？

- 国を跨ぐ調達・生産・物流といったサプライチェーンの構築・改善について企画・立案・実践・見直しができる人材を育てたい。
- 国際物流の現状を把握した上で、課題の設定や解決に向けた中心的な役割を担うリーダーを育成したい。
- 顧客のニーズを的確に捉え、シーズの発掘を積極的に行うことができる、企画提案力を持った人材を育成したい。
- 顧客に対し、国際物流を含めた複合提案ができるような人材を育てたい。
- 多国間取引の増加に伴い、国際物流の基本や最近のFTA / EPAの条約等の国際法規・ルールを習得した、国際物流のスペシャリストを育成したい。
- 次代の海外駐在員として、各国の物流事情の把握、現地マネジメント手法を身につけた、グローバル視点を持つ人材を育てたい。

本講座では、実務への応用が可能なスキルを身につけていただきます

- 国際物流に関する**専門知識**や**マネジメント技術**、**最新情報**や**企業事例**を総合的に学べます！
- 集合形式での**グループ討議**や**ケーススタディ**を通じて、**実践力**を習得します！
- **様々な業種・役職**の方々との交流を深め、実務では得がたい**ヒューマンネットワーク（人脈）**を構築します！
- **世界**で使える**わが国唯一の国際物流スペシャリストの証「国際物流管理士 International Logistics Master」**の資格が得られます！

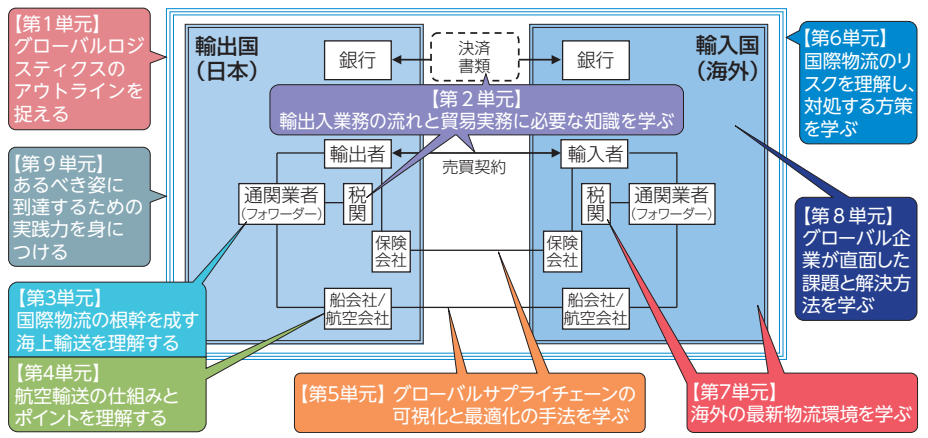
国際物流管理士に期待される到達レベル

- ① 国際物流やグローバルロジスティクスに関する専門知識を有し、実務で活かすことができる。
- ② 自社の物流の現状を把握し、問題発見や解決すべき課題を設定することができる。
- ③ 課題解決策を立案し、国内外問わず、社内外の関係者の理解と協力を得ながら実行することができ、さらにその効果を評価することができる。
- ④ グローバルレベルで全体最適を志向し、幅広い視点で新たな事業やサービスを企画・提案することができる。
- ⑤ 海外赴任先において、異なった価値観や習慣を持つ現地スタッフに対して、指導や権限委譲を行いながら、チームとしてまとめ、実務を遂行することができる。



第48期国際物流管理士資格認定講座カリキュラム

「国際物流の領域」と各単元の位置づけ (日本からの輸出の例)



第48期

国際物流管理士資格認定講座 カリキュラム

* 講師の都合等によりスケジュールに変更が生じる場合がございますので、あらかじめご了承ください。

会場 JILS研修室(東京都港区)

第1 単元

グローバルロジスティクスのアウトラインを捉える

国際物流から、ロジスティクス、サプライチェーンへの展開を学び、次単元以降の講義を理解するための基盤を作る。またグループ討議を通じて、課題解決への実践的な考え方を学び、受講者間で交流し、多様な立場、役割の理解とヒューマンネットワークの形成を図る。

(敬称略・2026年5月現在)

日程	時間	講義テーマ	講義内容	講師
2026年 9月9日(水)	9:30~ 9:45	開講式		
	9:45~10:00	講座オリエンテーション	修了要件・認定要件・レポート等、本講座の規程に関する説明をします。	事務局
	10:00~10:20	前期総代による講演	講座を受講するにあたってのポイント、体験談やアドバイス	本橋 佳樹 (株)イトーヨーカ堂 海外部
	10:30~12:00	国際物流とロジスティクス	物流とロジスティクス、国内と国際の違い、国際物流の形態の変化、マーケティングと物流、国際物流・ロジスティクスのリーダーに求められる知識・能力とは	林 克彦 流通経済大学 流通情報学部 大学院 物流情報学研究所 教授
	13:00~17:00	グループ討議 国際物流の現状・自社の課題認識 と解決の考え方	グローバルサプライチェーンを理解し、国際物流の現状や自社の課題をグループで共有し、原因の分析や解決に向けた取り組みについてグループで討議します。	林 克彦 流通経済大学 流通情報学部 大学院 物流情報学研究所 教授
	17:15~19:00	キックオフミーティング (交流会)	受講生間での交流の機会	

9/10 会場 JILS研修室(東京都港区) 9/15-16 オンライン開催

第2 単元

輸出入業務の流れと貿易実務に必要な知識を学ぶ

国際物流の業務に携わるうえで、輸出入業務に関わる通関、条約、インコタームズ、決済、外国為替、国際ファイナンス等事項の理解、習得は不可欠である。本単元では、貿易取引のデジタル化 (Fintech) 等の最新動向を盛り込みながら、輸出入業務について、基礎からわかりやすく解説する。

(敬称略・2026年5月現在)

日程	時間	講義テーマ	講義内容	講師
9月10日(木)	9:30~17:00	貿易取引の全体像・基礎知識、貿易 売買契約と各種決済方法、外国為替 とリスクヘッジ、国際ファイナンス	貿易取引の全体像・基礎知識、貿易取引の流れ、信用状統一規則、銀行の外国為替業務、輸出入取引の流れと留意すべきポイント、リスクヘッジ	井上 泰伸 日本貿易学会 会員 / 神奈川大学 経済学部 非常勤講師
9月15日(火)	9:30~12:30	輸出入における通関業務と保税手続 き、通関システム、AEO 制度	輸出入通関について、関係法令について、三国間貿易について、輸入貨物の課税価格の決定、確認のポイント、保税制度、非違事例、AEO制度の概要、経済安全保障	桜井 正広 (株)日新 通関院 部長 奥原 翔 同 課長、通関士及び EPA 関税認 定アドバイザー
	13:30~15:00	インコタームズ、ウィーン売買条約	トレードタームズ(定型取引条件)とは、インコタームズ2020の概要、ウィーン売買条約のポイント	田口 尚志 早稲田大学 商学学術院 商学部 教授
	15:10~17:10	FTAとEPA、原産地規則	FTAとEPAとは、EPAのメリット、わが国が締結しているFTA/EPA、原産地規則の概要・適用税率、適用の条件	中岡 真紀 法政大学比較経済研究所兼任研究 員 貿易アドバイザー
9月16日(水)	9:30~12:00	海外コンプライアンス、貿易電子化、 貿易取引のデジタル化 (FinTech)	海外コンプライアンス(SWIFT排除、資産凍結など経済制裁)の構造・リスク、貿易取引のデジタル化におけるFinTech(ブロックチェーン技術)の活用	花木 正孝 近畿大学 大学院 商学研究科・経営 学部 商学科 教授
	13:00~16:00	グローバル生産を支えるロジステ ィクス	海外生産を行う顧客企業の要望に応えるために、国際物流企業はどのような知見が必要かを事例を交え、一緒に考えます。	山内 秀樹 国際物流コンサルタント / 早稲田 大学 非常勤講師
レポート提出日			2026年9月30日(水) 13:00まで	

第3
単元

国際物流の根幹を成す海上輸送を理解する

海上貨物輸送は、全世界における貿易の約9割（重量基準）を占めており、国際物流を進めるうえで、その理解は不可欠である。本単元では、国際海上貨物輸送産業の概論から輸送技術、主たるプレイヤーの役割、フォワーダーのデジタル化事例を解説する。
(敬称略・2026年5月現在)

日程	時間	講義テーマ	講義内容	講師
2026年 10月6日(火)	9:30~12:30	国際海上貨物輸送概論	国際海運業の概要、コンテナ貨物の荷動きとコンテナ航路網、船腹需給と運賃市況、アライアンス変化、物流チャックポイントと紅海情勢、共同海損、環境対応とDigitalization	原 源太郎 日本郵船(株) 調査グループ グループ長代理
	13:30~15:00	海上コンテナ輸送の仕組み、技術に関して	国際物流に用いる海上コンテナの概要(種類、サイズ、特徴)、取り扱いにおける注意点について(ドライ、リーファー)	浅井 正敏 オーシャンネットワークエクスプレッスジャパン(株) CP本部 SYM部 M&R課
	15:10~17:10	海上運送における特殊貨物(危険物)概論	危険物海上輸送の基礎知識(クラス・容器等級・試験方法と判定基準等)、容器包装、運送手続き(表示方法・運送書類への記載事項等)、運送方法	細川 満帆 (一社)日本海事検定協会 安全技術室 課長
10月7日(水)	9:30~12:00	フォワーダーとNVOCC、国際複合輸送	フォワーダーとNVOCCの違い、国際複合輸送ルートの特徴と問題点、輸入フォワーディング業務の流れ、仲介貿易、運賃	大森 重和 (株)日新 海上貨物部 部長
	13:00~15:00	海上個品運送契約 / 船荷証券 / Sea Waybill / 複合運送証券	運送契約、船荷証券、電子船荷証券、海上運送状、船荷証券統一条約、Japan COGSAの概要、船荷証券約款、複合運送証券	津田 勝也 弁護士法人岡部・山口法律事務所 弁護士
	15:10~17:10	フォワーダーのデジタル化動向	グローバルで進んでいるフォワーダーのデジタル化動向を踏まえつつ、デジタルフォワーディングとは何かを解説します。	川嶋 章義 (株)Shippio エバンジェリスト
	17:10~17:15	第5単元グループ討議 事前準備レポート出題	第5単元のグループ討議の事前準備レポートについて、事務局よりテーマ等の説明をします。	事務局
レポート提出日		2026年10月21日(水) 13:00まで		

オンライン開催

第4
単元

航空輸送の仕組みとポイントを理解する

商品ライフサイクルの短縮化やグローバルにおける在庫の最小化への対応を進めるうえで、航空貨物輸送の果たすべき役割は大きい。本単元では、航空産業、航空貨物輸送市場の概要、最新動向を解説するとともに、航空輸送の仕組みとそのポイントを解説する。
(敬称略・2026年5月現在)

日程	時間	講義テーマ	講義内容	講師
10月13日(火)	9:30~12:00	航空産業概論、航空貨物輸送概論、航空協定	航空輸送の現状、市場、航空輸送の仕組み(メリット・種類・業務フロー等)と輸送環境	(株)ANA Cargo
	13:00~17:00	航空運送約款と航空運送状、航空貨物運賃	航空輸送に関わる条約・約款、運賃の算出方法・Chargeable Weightの決定方法	
レポート提出日		2026年10月27日(火) 13:00まで		

10/14 オンライン開催 11/4-5 会場 JILS研修室(東京都港区)

第5
単元

グローバルサプライチェーンの可視化と最適化の手法を学ぶ

物流・ロジスティクスの高度化を考えるうえで、在庫管理やSCM、3PLは、重要なテーマである。本単元では、それらの理論とともに実例を交えて解説する。また、設定したケースに基づくグループ討議・発表に取り組むことで、情報収集・整理の仕方、グループでの企画・提案力を身に付ける。
(敬称略・2026年5月現在)

日程	時間	講義テーマ	講義内容	講師
10月14日(水)	9:30~12:30	国際物流におけるコストとKPIの算定と既存業務プロセスの見直し	KPIに必要な要素、「現地化」とロジスティクスの転換事例、プラットフォーム戦略、業務プロセス改革担当者の条件、グローバル・ロジスティクスミックス	橋本 雅隆 明治大学 名誉教授
	13:30~17:00	サプライチェーン・マネジメント(SCM)の基礎とその最適化	SCMとは? SCMの重要性、SCM最適化のための改善方法、SCM最適化事例を紹介。	石垣 嘉文 フォーティエンスコンサルティング(株) CS事業部 SCMチーム プリンシパル
		グローバルサプライチェーンの各種改善手法~SCMのベスト・プラクティス~	SCMを最適に行うための代表的なベスト・プラクティス(ある結果を得るのに最も効率の良い技法、手法、プロセス、活動などのこと)を知る	
11月4日(水)	9:30~12:20	3PL 概論	3PLとは、日本と海外の3PLの現状、なぜ3PLなのか、3PL化で注意すべき点・必要なこと、国際物流の3PL化	中谷 祐治 ロジ・ソリューション(株) 顧問
	13:20~14:50	国際物流における3PL導入事例	荷主から見る3PL戦略の策定要素・選定基準・審査イメージ、グローバル企業での3PLの選定事例	田中 秀憲 ヴァイトリス製薬(同)ロジスティクス部ディレクター
	15:00~17:00	国際物流における3PLの実践事例	3PLの考え方、国際物流における事例、荷主の課題解決支援プロセス、今後の輸送サービスの展望	尾上 清 日本通運(株) モビリティセールス部 顧問
11月5日(木)	9:30~17:00	グループ討議	設定されたいくつかのケースに基づき、事前準備レポートでの考察を踏まえつつ、グループ内で解決に向けた方策を検討し、全体発表を行います。	中谷 祐治 ロジ・ソリューション(株) 顧問
レポート提出日		2026年11月19日(木) 13:00まで		

現地
見学会

国際物流の最前線を、見学して感じる

国際の物流施設等を見学することで、輸送機関の特徴や、国際物流における現場、オペレーションに関する理解を深める。

(敬称略・2026年5月現在)

日程	時間	講義テーマ	講義内容	講師
10月21日(水)	午後	現地見学 / 大井ふ頭 コンテナターミナル	大井コンテナふ頭(東京港コンテナターミナル)を見学します。	日本郵船(株)
10月28日(水)	13:30~15:30	オンライン見学 / 成田空港 貨物ハンドリング施設	航空貨物のハンドリングをオンラインで見学します。	(株)ANA Cargo

※10月21日(水)のコンテナターミナル見学は、集合開催です。(集合場所: 品川駅(東京都港区)(予定))

オンライン開催

第6
単元

国際物流のリスクを理解し、対処する方策を学ぶ

企業活動におけるリスクマネジメントの重要性はますます高まっている。本単元では、国際物流におけるリスクの概要と、特に重要となる貨物事故防止対策、並びに貿易貨物保険とクレーム手続のポイントについて解説する。

(敬称略・2026年5月現在)

日程	時間	講義テーマ	講義内容	講師
11月12日(木)	9:30~12:30	国際物流のロスプリベンション	現場から見た国際物流クレームの現状とロスプリベンション検討の実例	能勢 正貴 (一社)日本海事検定協会 千葉事業所 部長
	13:30~17:00	貿易貨物保険とクレームの実務	外航貨物海上保険の特色、貨物海上契約について(約款の説明)、貨物海上保険におけるリスクの判定と保険料率の算定、クレーム手続き	板谷 俊毅 東京海上日動火災保険(株) 航空海上業務部 貨物業務グループ マネージャー
11月13日(金)	9:30~12:30	リスクマネジメント・BCP 概論	物流に関わるリスクとは、リスクマネジメントとは、基本的な進め方(リスク特定・分析・評価)と留意点、企業の取り組み事例、BCP 概論	田代 邦幸 (同)Office SRC 代表
	13:30~17:00	国際物流におけるリスクマネジメント事情、リスクマネジメント・ワークショップ	昨今のリスク事象、リスクアセスメントとリスクマネジメントの考え方、グローバル企業にみるリスクマネジメント活動、リスクマネジメントワークショップ	原 敬徳 SOMPO リスクマネジメント(株) 取締役常務執行役員 首席コンサルタント
レポート提出日			2026年11月27日(金) 13:00まで	

オンライン開催

第7
単元

海外の最新物流環境を学ぶ

物流コストを削減しつつ、高品質な国際物流を構築するためには、海外の物流状況を把握することが不可欠である。

本単元では、各地域における物流インフラ、通関等の物流事情について、最新事情を盛り込みながら解説する。

(敬称略・2026年5月現在)

日程	時間	講義テーマ	講義内容	講師
12月9日(水)	9:30~12:00	米国の最新物流事情	米国貨物輸送の概観、物流にとって重要な都市と物流システムの展開、米国の輸出入制度	田阪 幹雄 (株)NX 総合研究所 リサーチフェロー
	13:00~15:00	インドの物流・文化・制度とこれから	インドの物流を中国の物流と比較しながら、物流に影響を与える多様な文化・制度、今後の経済成長・将来展開などに言及しながらインドに進出する際の検討すべきポイントを解説します。	樋口 恵一 川崎陸送(株) 代表取締役社長
	15:10~17:10	欧州の最新物流事情	欧州における物流事業の取り組み事例、EUの概要と日本との関係、各国のインフラ事情(航空・海上)、地域別の物流事情	藤田 美樹 ライトコンサルティング 代表
12月10日(木)	9:30~12:00	中国の最新物流事情	中国経済と物流事情、中国物流の変遷、中国物流の難しさ、保税制度の重要性、関連規制の説明、事例の紹介	栗田 幸武 (株)アルプス物流 常務執行役員
	13:00~15:00	ASEAN 地域の最新物流事情(海の ASEAN・陸の ASEAN)	ASEAN地域の物流を海のASEANと陸のASEANに分けた視点で経済成長が続くASEAN市場の海上輸送、陸路輸送についてベトナム、インドネシアの物流事情やASEAN各国の国境をまたぐ陸路クロスボーダー輸送の具体例の紹介	松田 邦毅 日本通運(株) フォワーディングビジネスユニット 国際海運統括部 部長
	15:10~17:10	中国の国内および ASEAN への物流戦略	中国における国内の物流政策の動向と、一帯一路戦略の今後や、インド、台湾、アセアンとの国際物流政策について解説します。	町田 一兵 明治大学 商学部 教授

第8
単元

グローバル企業が直面した課題と解決方法を学ぶ

経済成長が著しい中国や東南アジア等の新興国では、現地における物流拠点の構築・マネジメントの重要性がますます高まっている。本単元では、これらの取り組みを進めるうえでのポイントについて解説する。また、駐在経験者による座談会を通じて、受講者のグローバル意識を高める。
(敬称略・2026年5月現在)

日程	時間	講義テーマ	講義内容	講師
2027年 1月13日(水)	9:30~12:00	SCMの視点から取り組む海外現地における改善活動	各地で直面していた物流課題と解決に向けた取り組みの紹介、SCM・ロジスティクス管理のあり方・業務診断のチェックポイント	魚住 和宏 SCMソリューションデザイン 代表
		海外駐在における駐在員の役割と心得	駐在員の役割(簡単な財務分析手法、物流管理のあり方)、海外駐在員が遭遇しやすいリスク(私生活・仕事)への対応	
	13:00~15:00	グローバルサプライチェーンとテクノロジートレンド	EC市場の成長や、デジタル化、労働力不足、サステナビリティという文脈のなかで、倉庫の自動化等における最新テクノロジー活用の取組みについて解説します。	武田 一哉 Ryoma サプライチェーンパートナーズ(株) 代表取締役社長
1月14日(木)	15:10~17:10	世界で戦う外食チェーンのサプライチェーン戦略	単なるコスト削減から利益を生み出す「バリューセンター」へ。情報・物・お金を統合し「全体最適」を実現するサプライチェーン戦略について、グローバル外食チェーンの実例を共有します。	梶野 透 早稲田大学 グローバル生産・物流 コラボレート研究所 招聘研究員 (株)トリドールホールディングス グローバルSCM本部 本部長代行
	9:30~10:30	客観試験	第2~6単元までの各講義内容から出題	事務局
	10:50~12:40	駐在経験者による座談会	海外駐在経験者による現地での経験(気づき、現地経営の工夫)やキャリアに関する生の声を聞き、全体討議を行うことで、国際物流のスペシャリストとしてグローバル意識を高める機会とします。	桜井 正広 (株)日新 通関部 部長 北崎 淳 NX アムリカ(株) ロサンゼルス支店 アカ ウントセールス部 課長/国際物流管理士 藤原 政治 三桜工業(株) FA本部 本部長
	13:40~15:30	アパレル産業のグローバルサプライチェーン構築における物流サステナビリティへの要請	アパレル産業におけるグローバルサプライチェーンについて	山内 秀樹 国際物流コンサルタント
1月14日(木)	15:40~17:10	自動車のグローバルサプライチェーン	自動車のグローバルサプライチェーンについて	中村 吉明 専修大学 経済学部 教授

会場 JILS研修室(東京都港区)

第9
単元

あるべき姿に到達するための実践力を身につける

グローバルな事業展開を行っている企業のロジスティクス改革をテーマに据えたケーススタディにグループで取り組む。サプライチェーンマップ分析や在庫分析等、SCMの視点に立った課題抽出方策や改革・改善技法を学ぶ。
(敬称略・2026年5月現在)

日程	時間	講義テーマ	講義内容	講師
2月3日(水) 2月4日(木)	9:30~17:00	ケーススタディ 「グローバルロジスティクス改革」	グローバルな事業展開を行っている企業のロジスティクス改革をテーマに、サプライチェーンマップ分析や在庫分析等、SCMの視点に立った課題、抽出方策や改革・改善技法をグループ討議を通じて学びます。	魚住 和宏 SCMソリューションデザイン 代表

JILS 研修室 (東京)



資格認定証授与式

当講座の修了基準を全て満たした受講者には、「国際物流管理士 (International Logistics Master)」の資格を授与する (累計取得者数: 1,702名、2026年5月現在)。

日程	時間	講義内容	講師
3月12日(金)	16:00~17:00	資格認定証授与式 ※資格認定証授与式終了後2時間以内の懇親会実施	委員長、副委員長

※資格認定証授与式は、JILS 研修室で実施予定です。

本講座
の受講
イメージ



※本講座の講義はオンラインで行います。演習指導・グループワークは、集合形式(会場)で行います。現地見学は、集合・オンラインで各1回行います。

資格認定について

修了基準

- i) 14日以上出席すること。
- ii) 該当する単元で出題されるレポート試験を全て受験していること。
- iii) 客観試験を受験していること。
- iv) 第9単元「ケーススタディ」に2日間出席すること。

合格基準

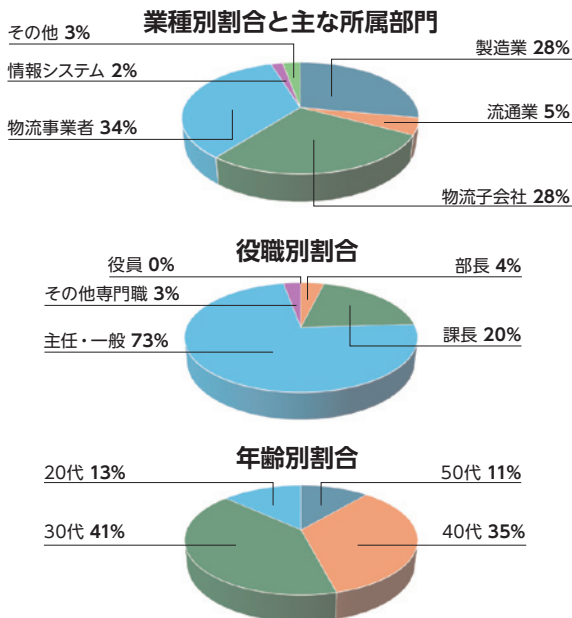
	①レポート試験（5回）					②客観試験	③欠席減点	④総合平均点 {(①+②)÷6}-③
	第2単元	第3単元	第4単元	第5単元	第6単元			
配点	100点	100点	100点	100点	100点	100点	1日欠席：1点減点 半日欠席：0.5点減点	100点
合格基準	70点以上	70点以上	70点以上	70点以上	70点以上	70点以上		70点以上
提出日/実施日	9月30日(水)	10月21日(水)	10月27日(火)	11月19日(木)	11月27日(金)	1月14日(木)		

※資格認定規程の詳細は、講座の開講時に、事務局よりご説明いたします。

講座受講者の所属（例）▶

製造業：国際物流部・グローバル企画部・海外営業推進部・SCM部等
 物流事業者：国際事業推進部・グローバル統括部・海外オペレーション部・通関保税部等
 ぜび、貴社内の国際ビジネス、国際物流、SCMにかかわる部署の方々にも本パンフレットをご回覧ください。

過去の国際物流管理士資格認定講座 受講者属性



国際物流管理士資格認定講座 資格取得者の声

本橋 佳樹 氏 (株式会社イトーヨーカ堂)

株式会社イトーヨーカ堂は、衣料品・住居品・食料品を提供する小売業として、1920年の創業以来、「信頼と誠実」の精神のもと、よりよい商品の提供に努めています。私の所属する海外部では、自社およびグループ関連会社の店舗に並ぶ商品や原料の一部を、海外工場から直接輸入し、国内の共配センターへ納品するまでの貿易実務を担っています。

国際物流を取り巻く環境が大きく変化する中で、最新の動向や仕組みを理解し、自社の業務改善や効率化に活かしたいと考え、国際物流を基礎から応用まで総合的に学べる本講座に魅力を感じて受講しました。

本講座では、国際物流の経験豊富な講師陣による講義を通じて、理論と実務の双方から、最新動向を含めた国際物流の知識を体系的に学ぶことができました。実務経験に裏打ちされた講義内容は、市販のテキストでは得られない深い気づきを与えてくれ、講義を重ねる中で「国際物流」の奥深さと業務領域の広さを改めて実感しました。

また、業種・業態、年齢、役職の異なる受講者と顔を突き合わせて行ったディスカッションは非常に印象深く、同じ課題であっても多様な視点から意見が交わされることで、考え方が大きく広がりました。

本講座で得た知識と視点を糧に、持続可能な国際物流・サプライチェーンの構築に貢献できる国際物流のプロフェッショナルを目指してまいります。

国際物流管理士専門委員会 委員名簿

本講座は、公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会が主催し、第一線で活動している学識経験者や実務家で構成された国際物流管理士専門委員会によって企画・運営されています。

(敬称略・順不同・2026年4月30日現在)

委員長	林 克彦	流通経済大学 流通情報学部 大学院 物流情報学研究科 教授
副委員長	魚住 和宏	SCMソリューションデザイン 代表
副委員長	田阪 幹雄	(株)NX総合研究所 リサーチフェロー
委員	栗田 幸武	(株)アルプス物流 取締役 常務執行役員 事業本部長 兼 国際事業部長 兼 輸出入事業担当
委員	森本 直樹	(株)ANA Cargo エデュケーションセンター長
委員	石原 伸志	前) 神奈川大学 アジア研究センター 客員研究員
委員	石川 雅啓	近畿大学 経営学部商学科 准教授
委員	山内 秀樹	国際物流コンサルタント
委員	佐藤 泰三	三桜工業(株) 生産管理部 部長
委員	中村 吉明	専修大学 経済学部 教授
委員	板谷 俊毅	東京海上日動火災保険(株) 航空海上業務部 貨物業務グループ マネージャー
委員	桜井 正応	(株)日新 通関部 部長
委員	梶原 幸絵	(株)日本海事新聞社 編集局 編集部 次長 コンテナ物流ユニット リーダー
委員	中村 和之	日立建機ロジテック(株) 取締役社長
委員	武田 一哉	Ryomaサプライチェーンパートナーズ(株) 代表取締役社長

※上記ご就任委員は、今後変更となる場合がございます。予めご了承ください。

受講申込規程

● 受講料	◆ 当協会会員 ……………	受講料484,000円(税込) / 1名
	◆ 会員外 ……………	受講料605,000円(税込) / 1名

● 有資格者優待	当協会の認定する下記資格を持つ方は優待料金にてご受講いただけます。 (対象:「物流技術管理士補」「物流技術管理士」「グリーンロジスティクス管理士」「物流現場改善士」)
	◆ 当協会会員 …………… 受講料424,000円(税込) / 1名
	◆ 会員外 …………… 受講料545,000円(税込) / 1名

● 単元聴講	特定の単元のみご受講いただくことができる制度です(第1・9単元を除く) 現地見学(東京港)は第3単元、オンライン現地見学(成田空港)は、第4単元に付随するプログラムです。 (1単元・1名様あたりの金額：消費税込み)
	◆ 当協会会員 …………… 第2・5単元… 90,750円/単元 第2・5単元以外の各単元…60,500円/単元
	◆ 会員外 …………… 第2・5単元…101,640円/単元 第2・5単元以外の各単元…67,760円/単元

● 受講料に含まれるもの ①テキスト、資料代 ②審査料 ● 定員 36名(定員になり次第締切：最少催行人数 18名)

● 受講申込方法 ◆ WEBで受け付けています。当協会ホームページの本プログラムのページよりお申し込みください。

トップ → イベント・講習会・交流会 → 教育研修 → 講座・コース → 国際物流管理士資格認定講座
※当協会のホームページは www1.logistics.or.jp または「JILS」で検索してください。

● 事前に必ず以下をご確認ください。

日本ロジスティクスシステム協会(以下「主催者」という)が定める「JILSオンライン研修受講にあたってご了承いただきたいこと(※)」と、以下の事項の内容をお読みいただき、内容についてご理解、ご承諾のうえお申込みください。

(※確認先URL：<https://www1.logistics.or.jp/Portals/0/pdf/onlinekensyu.pdf>)

- ◆ 本講座の受講は申込時に登録した受講者に限定し、1人1台のデバイスでご参加いただけます。
- ◆ 主催者に起因する事由や不測の事態により通信が中断した場合は、録画した本講座を期間限定で配信します。
- ◆ 受講者に起因する事由により通信が中断した場合は、主催者は責任を負わないものとします。
- ◆ 本講座の録画、録音、撮影は禁止します。
- ◆ 受講者により運営を妨げるおそれのある行為がある場合、対象者の受講を中止させることがあります。
- ◆ テキストは各単元の開講日前に電子データ(PDFファイル等)で受講者に配付します。

<Zoomについて>

◆ 本講座はZoomミーティングを利用して実施します。事前に受講で利用するデバイス(カメラやマイク機能のあるもの)にミーティング用Zoomクライアントをインストールのうえ、Zoom接続テストURL(※)にアクセスし、受講に支障がないことを確認してください(Zoomクライアントが利用できない場合は、ご参加いただけません)。

◆ 本講座のスムーズな進行のため事前のインストール、接続テスト、諸機能の把握等へのご協力をお願いいたします。

(※Zoom接続テストURL <https://zoom.us/test>)

<Microsoft office について>

◆ 演習にてMicrosoft officeのExcelやPowerPointを使用します。これらのアプリケーションを利用できるデバイス、環境にてご受講ください。

● 受講料お支払い方法

【受講料支払い方法】

- ◆ WEB請求書で請求いたします。
- ◆ WEB請求書は原則として派遣責任者のE-mail宛に送付いたします。それ以外をご希望の方は、協会への連絡事項欄にご指示ください。
- ◆ 振込手数料は、お客様にてご負担願います。

【お願い】

◆ 受講予定の方のご都合が悪い場合は、全単元を代理の方がご受講ください。なお、代理の方のご受講も不可能な場合は、下記の規定により、キャンセル料を申し受けますので、あらかじめご了承ください。

(注)参加申込をキャンセルする場合は、事前にプログラム内容の問い合わせ先にお申し出ください。

【キャンセル規定】	開催30日前～15日前(開催日初日を含まず起算) ……………	受講料の10%
	開催14日前～8日前 ……………	受講料の20%
	開催7日前～前々日 ……………	受講料の30%
	開催前日および当日 ……………	受講料の全額

※キャンセル料は原則として消費税を除く受講料をもとに計算

● 受講申込先・プログラム内容の問い合わせ先・演習会場 (JILS研修室)

公益社団法人 日本ロジスティクスシステム協会 JILS総合研究所 〒105-0022 東京都港区海岸1-15-1 スズエベイディウム3階
WEB(国際物流管理士資格認定講座)：<https://www1.logistics.or.jp/education/ilm/> E-mail: ilm@logistics.or.jp

◆ 個人情報の取り扱いについて

日本ロジスティクスシステム協会では、個人情報の保護に努めております。

詳細は、当協会のプライバシーポリシー (<https://www1.logistics.or.jp/privacy/>) をご覧ください。

なお、ご記入いただきましたお客様の個人情報は、本講座に関する確認・連絡・受講者名簿の作成および当協会主催の関連催し物のご案内をお送りする際に利用させていただきます。

JILS ホームページ <https://www1.logistics.or.jp>